

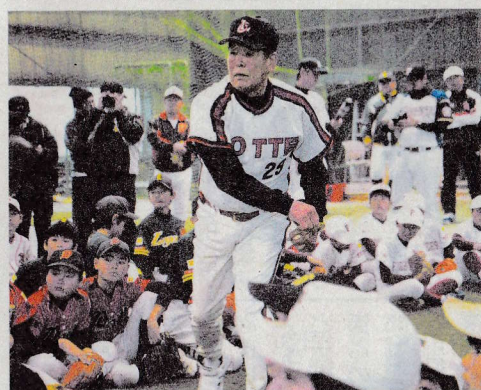
村田兆治さんら元プロが教える

住友建機少年野球教室

住友建機株式会社主催の少年野球教室が2月16日、日本大学野球部室内練習場で開かれた。

この野球教室は同社の地域社会への貢献活動として、青少年の育成を目指し、元プロ野球選手らの協力で全国各地で開催されている。茜浜にある株式会社丸山工務店からの「強い選手を育ててもらいたい」という要望に応え、習志野市で初めて催された。

65回目となる教室は雨のため、日本大学野球部が提供した室内練習場で行われ、少年球児約130名が参加した。講師はマサカリ投法で215勝、奪三振2363の記録を残し、野球殿堂入りを果たした村田兆治さん、村田投手のフォークボールを受けた元ロッテの袴田英利さん、オリックスでイチロー選手を指導し、楽天などでコーチを務めた本西厚博さん、日本ハム時代は最多勝を獲得した西崎幸広さん、西武、ヤクルトで活躍した鈴木健さんが務めた。



現役時代を思わせる速球を返す村田さん



投球を指導する西崎さん



本西さんにコーチたちも厳しく鍛えられる

開会に当たり村田さんは礼儀正しい挨拶、物事を分析して、判断し、判断したら実行することの大切さを話し、「野球にはルールがある。ボールが来た時には声を出さないといけない、ケガをしない、約束は守るということ。上手になってもらえるようにしっかり教えます」と気合を込めて挨拶。球児たちは大きな声で「ハイ」と答え、代表して実稲クラブの山館賢さんが直接教えてもらうことに感謝を述べた。

準備運動には少年野球チームのコーチ陣も参加し、本西さんが熱心に指導した。基本となる走塁、キャッチボール、ゴロの捕球など守備のほか、打撃では鈴木さんが「ボールを見る、タイミングを計る、ポイントを確かめる」といったことのほか、打つ角度やバットの前で打つことを見本を見せながら教えた。袴田さんは捕手を、西崎さんは投手を指導し、走攻守全般のレベルアップのため講師たちが球児に声をかけ、手を取った。

指導を終え、村田さんは「きょう教わったことを頭において練習をすること。教室での15年間には甲子園に行った子どももたくさんいる。何があっても負けないう強い人になって下さい」と球児を励まし、指導者には「自分の健康管理をして、地域への貢献を祈っています」と伝えた。

球児を代表して大東あづまヤンチャーズの三井悠太さんが「一番楽しかったのはバッティング練習でした。きょう教えてもらったことをこれから生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました」とお礼を述べた。

地域新聞
ならしの朝日
令和2年6月5日号